京城新聞

●幕末の榎本子

今の榎本子爵を見る

目下危篤なる

▲幕末の最大人物　今の榎本子爵を見るもの或は之を二流と謂ひ或は之を三流と謂ふ、而も明治元年德川幕府三百年の歷史を雙肩に荷て日本に並のない開陽回天蟠龍其他都合八隻の軍艦を率て悠然品川灣外に浮んだ當時の榎本釜次郎氏は名望地位勢力共に實に第一流の大々的偉人物であつたのである、西郷でも大久保でも其他在朝の名士皆榎本子一人を眼の上の瘤とし彼を甚麽か處置しなければ枕を高くする事が出來なかつた、朝廷も官軍も將た天下の人も皆擧げて榎本子一人を恐怖したのである、當時の彼は和蘭譲りの新艦を有して居る、其の手足としては當時無比（今から見れば話にならぬが）の軍艦と精鋭の將士がある、東北地方では隱然聲援を與へて居る、彼は何を仕出すかも知れない、一ツは買冠りもあつたであらうが當時の子の勢力は實に天下を壓して宏大のものであつた、横文字新聞でさへもエノモトスルーブスとして大々的に記載した位で其行動は廣く內外人の注目を惹いたのである、干時子の年は三十三歲であつた

▲容易に動かず　斯の如くして子は大勢力ある海軍を抑へた、江戶にある兵糧彈藥亦手當り次第に取れる、機を見て早く出動し到る處沿海を砲擊すれば東北地方も之に應援して天下鼎沸の觀を呈したかも知れない、處が子は容易に動かない、故勝伯と提携する處があつた爲かも知れぬが主家の封の定まる迄は動かぬと謂て頑として起たない、其間に東北地方では憤慨してヤイ／＼と騷ぐ而も尙動かずして堂々品川灣を壓して居た、官軍の側では氣味が惡くて堪まらぬ、時の官軍參謀木梨精一郎氏は大總督府の命を受け子が主家軫念の情切なるを賞し軍艦八隻の中四隻を賜はると傳へて來たが斯くても尙安心は出來なかつた

▲始めて出動す　其の中に德川龜之助樣（今の家達公）は駿府に八十萬石の封が定まつた、榎本子は之を見て始めて品川灣を出た、戰略から謂へば此時は既に機を失して居る夫を知らぬ榎本子でない、然らば何故早く出動しなかつたかといふ疑問が起る、此處が即ち歷史家の愼重なる評論を要する處であるが子は主家の封の定まる迄は固く出動せぬ決心であつたに違ない、其上に子は天朝に向つて弓引く氣はない、薩長に向つて一戰する氣はあつた、人の食を食する者は人の事に死すとの語は常に子の口にする處であつたのを見ても其意氣が解る、出動途中暴風雨に會ひ計畫は大分齟齬した樣であるが後に函館を陷れ五稜郭を乘取り兎も角も蝦夷の總督となつた、僅の夢であつたが暫らくそこを統治して居つた

俳句

月ご菊　飛天子

大月や銀字で散らせ戀の歌
月の虫美き聲は君が歌ならめ
月華十里冴ゆてあらゆる物の色
月に讀む戀い扉に彫る罪の名を
野に月や手にどらん鬼魂の行方
菊貽知巳は百年の後に待て
赤菊に妬の歌は誰が結びし
秘めし涙れちて白菊の露と凝る
白菊やうつゝに悶知り初めし
白菊や罪の子などて小賢しき



夢（四十四）

河合柳葉

「夢は五臟の患と云ひますから、何んな夢を御覧なすつても、豈夫夢のやうな事がある氣遣ひはござへませんけれども、しかし惡い夢は成るたけ早く話して聞かせるものだと云ひますから、どうぞ話して聞かして下さい。」と慰め顏に時子が云へば、

『五臟の煩ひには相違ないが、しかし夢にも種々あつて、昔から夢の感應で不思議の現象があつた事は、澤山に物の本などに書き遺されて居る、殊に實夢、虛夢、正夢、想夢、吉夢、惡夢などゝ云つて、夢に依つては等閑にされない夢もある、

しかし私が今見た夢などは、先づ名を命けるなら惡夢とでも云ふのであらうが、如何にも正々と現はれて、奈何考へても夢とは思はれないが、惡夢と氣が付いた上は猶且話した方が氣地もスッカリするから、話して聞かせやう、モウ少し燈心を搔立ては奈何だ。』

昔を偲ぶ丸行燈に少に光明を放つて居る燈火を時子は搔立て了つて耳を傾けた、時計が淋しさうにチンと一時を告げた、外は風が出たらしく雨戸が氣味で惡るやうにサラ／＼と音がする。

「夢と云ふのは外ぢやない、京都に居た出になつてる御前の身の上だ。或日の事御前が大山をれ連になつて南禪寺邊へ御散步に出掛なすつたのだ、すると誰れの棲居とも解らないけれども余程風雅な建方の家が空家になつて居て、疊も備後表に高麗緣の新らしいのが敷いてある、襖一つでも古代更紗のなか／＼洒落た品が用つてあつて、如何にも凉しさうに見ゆるので足も疲れが出た所であつたから、主こそ居ないけれど、恁うして明放してある程だから、其中には歸つて來るであらう、暫く休まして貰はうぢやないかと有仰つて內へ入つてれ憩みなすつたのだ、するとやゝ寸間した頃、其處が夢だから何處から歸つて來たか、其處は判然しないけれど、今でも其顏は目に殘つて居るが、年齡の頃なら十八九、二十歲頃でもあらうかと思はれる、些と見ると何處か良い家の令孃でもあらうかと思ふ、上品な美しい女が現れて、御前を見るとサモ馴々しい樣子で、御茶を進めたり御菓子を進めたりして、大層叮嚀に待遇すのだ、御前は留守中へ無斷で休まれたんだから、小言がましい事でも言ふかと思つて居られたのが、打つて變つた叮嚀な待遇ひと云ひ、殊に水の滴るやうな氣高い令孃が馴々しく辭をかけるので、大層御滿足の樣子で色々とれ話の末其の女を御旅館へれ供れになつて、有ら事か有るまい事か、到頭徒然のれ伽をれ爲せなすつたのだ、すると眞夜中頃になると、大層苦しそうな御聲をなさるから、大山が伺つて見ると、彼の美しい女は頭だけ其まゝの姿をして、首から下は一抱へもあらうと云ふ、ギョッとする程の白い蛇で、鱗をピカ／＼光せながら御前の體をグル／＼廻いて居るのだ、そればかりかと思つて居ると、大方雌雄でもあるのか、眞黑な大きな蛇が火のやうな赤い舌を出しながら、今にも御前を一呑に爲やうと、枕頭で樣子を窺つてるのだ、大山も現在御前の危うい場合を見ながら、大きな蛇が二尾も居るんだから、奈何する事も出來ないで、旅館の人々を起して大騒を始めたのだ。」

と云つて、冷めたる湯に口を濕した。

京城新聞

日本黨とは何ぞ

世には忠君愛國を麵包の種として騷ぎ廻る輩も少しとせず、此等の徒は其言ふ處は立派なれども其心事の陋劣汚穢なる其面に唾棄するも尙足らず、韓國人の日本黨と自稱するもの概して此類のみ、韓國が兎にも角にも獨立を標榜せる時代ころ、淸國黨もあれ、露國黨もあれ、日本黨もありしならんが今は全然日本帝國の保護國となり、上は皇帝より下は庶軍に至る迄日本帝國の保護の下にあり、此時に於て何ぞ黨同閥異あらんや、殊更に黨を大にして、我は純日本黨なりと自稱するものは所謂權勢及麵包の種とするものなり、其心事の淺墓にして陋劣なる憫笑以上に價ひす、然るに近來日本黨と稱して權勢に媚らんとするもの尠からず帝國の官憲が動もすれば之に誑惑せられんとする傾向あるに至りては慨歎せざるを得ず、帝國の保護國として統治する上に於ては眼中親日黨も排日派も其間何等の區別なし、一進會も大同敎徒も天道敎徒も基督敎徒も一視同認たるべき筈なり、然るを尙ほ昔日の夢を追ひ忠義顏して日本黨と稱し之を種に權勢を得んとするに至りては迂愚も亦甚しからずや、而も之に釣り込まれて之を庇保せんとするに至りては寧ろ噴飯以上に價ひせずや、彼の李容九の如き放言して曰く我一進會は最初より日本黨なり、所謂日本の正妻也近來妾共統監に取入りて正妻酷遇せらる統監の浮氣にも困る云々と、李容九の言動近來常軌を逸する事多く到底正氣の沙汰とは思はれざる事あるも、事情に通せざるものは往々其の囈語に動かさるゝ傾きあり宋秉畯及李容九等の一進會派は頻に日本黨を振り廻はし巧に祖國の輿論を動かさんとする計畫ありと聞く、韓人等の舊夢尙ほ醒めずして斯る事に狂奔するは止むを得すと雖も、日本人にして之が尻馬に乘りて共に騷ぎ廻るに至りては沙汰の限りなり然も帝國官憲にして斯る陋劣なる狂言の爲に動かさるゝが如き事ありては統監政治の前途に杞憂を抱かざるを得す

帝國の保護統治上殊更に日本黨なるものを用ゆる必要なし、韓國人は帝國の保護國民なり統監は之を統治する上に於て命令權を有す、如何なる人物が內閣を組織するとも統監の命令に背く事能はざるべし、排日黨とか親日黨とか稱して軋轢する時代は既に過ぎ去れり、列國公使が漢城に駐在せられたる時代には此等を利用する場合もありしならん、今は然らず韓國民は總て之れ帝國の保護國民にして一視同認に指導啓發をなさゞる可らず、現に一進會の如きも何等の徒もなく渠等が殊更に親日を標榜する爲に却て害ある場合なきに非ず、韓國民たるものは須く自己の立場を自覺して陋劣なる行動をなすことなく帝國の保護指導に信賴すべし我官憲も黨同閥異の區別をなさずして宜しく包括的の統治をなすべきなり

●漢城便り

▲此頃は何れへ行きても誡は勤儉力行の詔勅にて持切り居候十人十色にて其註解も色々に爲され居候樣子に御座候記者の解を以てすれば勤儉力行とは食す貧樂の事には非ずして大に働き大に食ふことならんと被存候

▲或人の解に因れば今回の詔勅は吾人臣民に敎ふるに臥薪嘗膽を以てするなりと、十二億圓の債務を外國に有し年々六千萬圓の利子を拂ふの義務を有する我國民が臥薪嘗膽ならざるべからざるは勿論の儀に御座候但し臥薪嘗膽を以て粗衣粗食の事など誤解せざること肝要に御座候

▲過日記者が度支部に於て一覽したる眞珠飾付の軍刀は文祿の役豐太閤の手に入たる者と同形にて其時價は僅かに十萬圓を下らず候此十萬圓の軍刀が今日迄殘り在るは韓人の爲に處分せらるゝ物我物主義なりしは全くソレが雪隱的なる古物置の塵介中に埋藏しありたるが故に候

▲韓國寺院の統一とは佛敎統一を名とし記者の解に苦しむところに候統一は其何を意味し候や本山建立の資金を集め又は各地方寺院の有する田畑を無償にて取上げんとするの計畫ならば兎も角眞面目に寺院と佛敎とを復活せしめんとするならば幷は徒勞に歸するの外無之候一冊煎の日本僧侶は迦婆氣澤山の人なれば其爲さんとすることは必ずや本山建立と田畑取上げとにあることゝ存候

▲日戶君の機關雜誌京城評論第一號は天晴其人の儀にて議論縱橫々面白く讀ませ申候其第二號に於ても破鏡的文字を以て爲政者の惰眠を覺醒せられんことを樂んで待望致候

東京電報

▲陛下の詔勅

昨日米國艦隊提督參內の際　聖上には大統領の艦隊招待の謝辭に對し左の如き詔勅ありたり

兩國の親善は朕が重要と爲す所なり將來益々交誼を密にし善隣の誼を普及せしむるは朕の希望にして尙ほ既往の如くならしむべし

▲米國の滿足

高平大使の報に依れば米國艦隊歡迎に關する日本の好意は一般に滿足の意を表し同大使を訪ふて謝辭を述ぶるもの鮮なからず(二十一日發)

▲米提督の參內

米國艦隊提督スペリー少將は部下三十餘名を率ひ米大使同伴にて參內し大統領よりの傳言を奏上し一同へ陪食を賜ひたり

▲妻木博士の渡韓

大藏省臨時建築部技師妻木賴黃氏は韓國へ差遣仰付けらる(以上二十日發)

▲貿易の順潮

九月中旬の貿易は二百八十四萬圓の輸出超過なり(二十一日發)

雜報

●韓國皇室と赤十字社

赤十字社副社長花房宮內次官より鍋原委員總長宛の電報に依れば今回の總會を機とし韓國皇后陛下並皇太子殿下に對し統監の同意を得て名譽社員に推薦することゝなり去十二日の理事會にて可決し去十九日の常議員會に於て議決確定したる由なるが右名譽社員章は本社最高の紀章にして皇太子には其傳獻方を統監に依賴し皇后陛下には松平理事之を奉し入京の上奉呈の手續をなす筈なりと因みに韓國皇帝太皇帝兩陛下には先年小澤副社長入京參內の節名譽社員章を奉呈せしに嘉納せられたる由

●韓國皇族以下の入社

今回の總會には舊社員の參列あるは勿論新に入社の上參列する向も少からざる中にも韓國皇族以下大官元老中にも本社博愛恤兵の主義を贊同して入社する者多き由

●商事法規の告示

東洋拓殖株式會社には同會社法第七條により日本國法規を準用する事となり居れるが韓國政府が右準用すべき法規即ち商法第一編第三章商業登記、第五章商業帳簿、第六章商業使用人の規定及び同第二編會社第一章總則、第四章株式會社の規定並に非訟事件手續法中第三編商事非訟事件の規定の譯文を近日の官報を以て公告する筈なり

●拓殖株申込豫想

東洋拓殖第一回株式拂込　申込は最初五倍に達すべき豫想にて從つて權利株の如きも一株五圓內外を唱へたりしも昨今の模樣にては二三倍を超過せざるべしと見込むもの多く權利株の賣買も至つて少き有樣也

●地方費規則

曩に屢々報導したる地方費規則は昨日の參與官會議に於て其の大体を議了したる由にて明年度より實施の運びに至るべき見込なるも果して幾許の收入あるや不明なるを以て來年度の總豫算には計上せず別會計となすべしと

●廣梁灣鹽田の新設

度支部臨時財政調査局に於て調査中なりし既報鎭南浦附近なる廣梁灣には愈々天日製鹽試驗場を置かる事に決定し先づ約五十町步の鹽田を設くる筈にて本年度に於て約五萬圓を支出する事となり目下農商工部に於て實地調査の上設計中にして遠からず工事に着手すべしと云ふ

●上海英字新聞の論文

十月三日上海に於て發行の北支那デリーニユースは其論文に大韓每日申報記者梁起鐸の依託金私消費事件に關し日本政府の當局者が公訴手段を採るに先ち穩便の方法を講せざりしを難し此の如きは徒に外人をして韓國に於ける日本の施政に對し惡感を懷かしむるものなりと論結せり

●韓人警部講習の開始

內部警務局は今回採用したる韓人警部强啓澤外十名に對し二ヶ月間を豫定として實務の練習をなす事とし昨日午前九時中樞院構內なる警察官練習所に於て開講式を行ひ松井警務局長衞生局長崔谷練習所長の訓示ありて十時散會したるが韓人警部の講習は今回を嚆矢とし講習生は前軍人及び警察學校卒業生等の志願者百三十九名中より試驗の上採拔したるものにして講習修了の上は各地方警察署勤務を命ずる筈なりと

●一進會の十三師團送別會

一進會は本月廿七日第十三師團長以下將校一同を獨立館に招待し送別會を開催すと云ふ

●海州歸還兵の出發

滯仁中なりし海州歸還兵は本日午後二時十五分仁川發列車にて出發する筈なり

●獨乙軍艦の入港

獨乙軍艦アルコナ號は昨日二時三十分仁川に入港せり

●浦鹽航路運賃協定

過般來露國義勇艦隊と大坂商船會社との間に交涉を重ねつゝありし浦鹽航路運賃問題は十七日大阪商船會社に於て義勇艦隊代表者と契約書の調印を終り愈々同日より同一步調を取ることとなりたるが右の運賃率は從來の賃錢に比し約二割乃至三割方引上る筈

●韓西滊船の消息

仁川有志の計畫に係る韓西滊船會社は其後漸く調査終了したるを以て近々韓政府に向ひ補助金の請願をなすと同時に設立認可の申請をなす運びに至れりとなり

●暴徒と地方の狀況

▲水原管區　前期に比し賊徒の出沒一般に增加し水原、龍仁、安城の地方に二三十名の賊徒出沒し人民に對し金品を强請すること尠からず而して本期間龍仁郡內に於て約三十名の賊と衝突せしことあり廣州郡地方は昨今賊魁金春洙は約二三十名の部下を率ひて出沒しつゝありと

▲開城管區　前期に比し賊徒の出沒頻繁となれり就中積城、麻田、漣川、朔寧郡地方には賊魁延基浩の一團約百名昨今出沒頻繁なりて現に我討伐隊と衝突せしこと數回あり而して該賊は茶褐色の服を着し武器は三十年式及び單發銃多く火繩銃は僅少なりと尙賊魁尹仁順は積城郡地方より坡州、楊州兩郡に渡り頻りに暴徒を募集中なりとの情報あり嚴に搜索中なり

▲平山管區　前期に比し賊徒の出沒增加し漸次不穩の傾向を呈せり賊魁李鎭龍は七八十名の部下を率ひ平山郡滅惡山を中心とし夜陰に乘して附近の部落を徘徊しつゝあり延安地方は昨今一層不穩にして數十名の賊徒黨出沒するに至れり而して賊魁沈、李等部以下外に尙小首魁の率ふる賊多數入り込み海陸共巧みに我視線外に行動しつゝあり又金川郡水龍山に賊魁延基浩の率ふる約一千名の賊入込み居るとの情報あるも信を置き難し

▲馬山管區　前期に比し大差なし然れども海州以東は沈舜府、姜呑三、李根守の徒出沒し人心不安の情態にあり海州以西は小首魁約十數名徘徊するに過ぎず

▲春川管區　概して平穩にして各郡とも今尙十名內外の賊徘徊し人民より金品を掠奪し未だ賊影を絕す然れども著しき被害なし

▲鐵原管區　概して平穩なりと雖も尙少數の賊徒出沒絕へず本期間約十名の賊と二回衝突せり

▲江陵管區　概して平穩なるも十數名より成る賊出沒し人民に對して金品を强請したること往々耳にすることあり著しき被害あるを聞かず

▲高陽管區　概して平穩なり少數の賊徒徘徊する事實あるも著しき被害あるを聞かず

▲江界管區　概して平穩なるも本期間渭原郡內に於て約二十名の賊と衝突せしことあり

▲寧邊管區　前期に大差なし本期間溫井、熙川、檜木洞附近に於て五六名乃至約二十名の賊七八回出沒せり然れども被害なし該賊等の多くは一時平安南道社倉方面に向ひたるも警戒嚴なるを以て退出し咸鏡道靈岩山方面を經て平安北道に入りたりと認む

▲新義州管區　本期間碧潼附近に九名の賊二回出沒せしのみ

●討伐彙報

騎兵第十七聯隊少尉巳下十三騎は十月十二日咸鏡道永興西南方の山地に於て約八十の賊を討ち其五を殪し銃三を鹵獲す△全羅北道南平守備隊の下士巳下六名は十月十六日淳昌の北方二里に於て約八十の賊を討ち其十三を殪し多數を傷け銃一韓銃一雜品多數を鹵獲し翌十七日更に淳昌北方三里に於て敗殘兵十餘名を追及し其五を殪し銃三を鹵獲す△全羅北道高敞分遣隊の下士巳下六騎は興德の巡査四古阜の巡査七古阜分遣所憲兵二と共に十月十五日興德東南二里半登山の西方の地に於て約六十の賊を發見し長城方面に追擊して其七を殪し銃一を鹵獲す△咸鏡南道中岑鎭分遣所の憲兵一補助員六は中岑鎭を去る東北方約六里に於て約三十の賊を討ち四を殪し二を捕ふ△鏡城分遣所の憲兵特務曹長巳下六補助員八は守備隊警察隊と共に十月十五日鏡城西南に於て約五十の賊を討ち三を殪す△平安南道孟山分遣所の憲兵一補助員三は十月十四日孟山の東方九里に於て三十餘の賊を討ち其五を殪し銃三を鹵獲す△光州東南方廣州店憲兵分遣所の憲兵下士巳下八は十月九日廣州店の東北約二里に於て約二十の賊を討ち二を殪し雜品若干を鹵獲す△忠淸北道丹陽分遣所の憲兵一補助員四は守備兵及巡査と共に十月十八日丹陽西南約五里に於て約三十の賊を討ち七を殪し銃六を鹵獲す△忠淸南道仁川分遣所憲兵二補助員四は十月十六日仁川東方五里半にて約二十の賊と衝突し二を殪し銃一を鹵獲す

●雲山無賴淸人

曩に淸國總領事の依賴に依り平安北道雲山郡北鎭地方の無賴淸人の不良所業取締の爲め島田警視を派遣したりしが該警視の報告に依ば北鎭にある東洋金鑛會社は警視一行に對し非常に好意を表し不良淸國人の搜索に多大の便宜を與へられ其結果各地に潛伏する多數の關係者を逮捕したるが三十三名を同行し新義州理事官に引渡し更に鎭南浦淸國領事に押送する豫定なる旨報告ありたり

●鐵島沖の海賊

平安北道郭山なる李朴來外四名は九月廿八日韓國帆船に乘じ郭山より義州に向け航行中同日午後九時鐵島沖にて支那帆船に乘組し海賊に襲はれたる後金五十六圓を掠奪せられ他の四名は亂打せられ乘組員一名銃殺せられ又掠奪後海賊は該船を黃海道長淵郡に碇泊し本月五日被害者の內三名を上陸せしめたり而して賊船には初め十三名の淸國人等乘組めるも被害船は亦掠奪したるものゝ如し前三名は今回の被害船に乘組めり

●鐵道時間改正期

來る十一月一日頃より全線の鐵道時間を[illegible]にて改正すべしと

●仁川穀物協會役員會

仁川穀物協會に於ては不日役員會議を開き業務方針につき協議する筈

●信夫理事官の天長節奉祝

來る十一月三日天長節奉祝の爲め仁川理事廳に於て同日午後九時より祝賀夜會を開催する由にて一昨日信夫理事官より官民數百名に夫れ夫れ案內狀を發せり

●妻木博士來京期

韓國工事顧問たる大藏省臨時建築所長技師工學博士妻木賴黃氏が韓國差遣を命ぜられたるは東電の報する所なるが氏は今日東京を出發し廿三日夜着京の筈なりと

●奧技師の來京

度支部囑托たる大藏省專賣局技師奧健藏氏は韓國鹽務に關する調査のため昨夜來京せし筈なり

●井上雅二氏

同氏は小松原文相の推選により近々東洋拓殖會社へ重用せらるべし

●中村農務局長の渡日

農商工部中村農務局長は農事調査のため約一ヶ月の豫定にて東京北海道地方に出張を命ぜられ昨朝出發したるが歸途は佐賀熊本等に立寄り韓國農事に關する講演をなす筈なりと

●山形憲兵少佐歸任

京城憲兵本部高級副官山形閑氏は二十二日午後歸任する由

●淺野支店長

三井物產京城支店長淺野長七氏は半島沿岸諸港及滿州視察中なりしが再昨日無事歸城せり

●竹山氏歸城

上京中なりし第一副支配人竹山純平氏は一昨日歸城せり

●足立前支店長の歸仁

釜山に[illegible]の爲め出張中なる足立十八銀行支店長は本日山口仁川新支店長と共に歸仁する豫定也

●開城郵便局長の赴任

村越開城郵便局長は廿一日仁川通過任地に向ふ

公人私人

▲柴田寅次郎(鎭南浦農工銀行員)　一昨夜入京山本旅館へ

▲安田不二麿(統監府技師)　一昨日入京巴城館へ

▲上田榮次郎(農商務省農事試驗所技師)　一昨夜入京巴城館へ

▲小笠原寬(水原財務官)　一昨日入京佐藤旅館へ

●近事片々

▲李容九の東京滯在は陰險なる策を弄する爲ならん近來奇怪なる風說四方に傳播す

▲巧に伊藤公の統監政治の誤謬を利用して一進會の衰勢を挽回せんとの小刀細工

▲禍國の信用ある新聞紙迄が此小刀細工に繰られ其尻馬に乘らんとするには驚く也

▲異分子の混合せる李內閣を排擠せる結果純日本主義の宋秉畯を孤立せしむと云ふ

▲一進會をして殆ど活動する能はざらしむ速に宋秉畯內閣を組織せよとの言ひ草也

▲要するに彼等は宋秉畯を首相とし一進會內閣を成立せ之にて黨勢を挽回せんとす

▲斯る陋劣なる考で種々の飛語を放て目的を達せんとしつゝあり甘く行かば御慰み

▲無暗に日本黨を振廻はして日本國民の同情に訴へる杯隨分虫の好き擧動にぞある

▲此等の仕事が李容九一人のすることに非ざるは何人も知る所なるが黑幕は誰人ぞ

▲宋秉畯が此渦中に投じ居るとは何人も想像する所なるが借其外には何人が附居る

▲若しも黑幕に日本人の參するものあらば幷は不都合の甚しき者宜しく懲戒すべし

▲軍隊の韓人殺戮事件の如き大に魂膽ある者ならん邦人は渠等に對して戒愼を要す

▲李容九東上の魂膽も最早腹の奧迄見え透きたり何事も眉に唾して聞かざる可らず

▲寺院統一なる問題持上る韓國の佛敎は何等の要をなさず統一したり迚矢張り同じ

▲統一問題の裏にも何等かの魂膽あらざる乎宋內相の之に力瘤を入れる工合は如何

▲李容九や宋秉畯の背後には常に黑幕の付纏ふ噂あり異ならば厄介千萬の奴共なり

▲世に朝鮮屋なる遊民あり時々陰險の策を弄して錢儲けをなす誠に早や困つた者也

▲眞に志士として世に立つならば帝國本位を旨として韓人共と一ツ腹の仕事は不可

▲利益さへ獲得するならば何でも構はぬと云ず志士號は眞に度し難し獅子身中の虫

▲暴徒東小門外に現はれたりと云ふ隨分圖々敷暴徒共なる哉更に一大掃蕩を要す也

▲地方收穫の季節に入る此際暴徒出沒して掠奪する恐れあり大討伐を斷行すべき也

▲地方に於ける一進會員の如きも大に注意を要す日本を嗣に被て良民を脅す可らず

▲一進會でも侍天敎でも何でも彼でも統監政治の防害者はドシ／＼懲罰を斷行すべし

京城居留民團公文

正誤 明治四十一年十月十七日付公布ノ京城居留民團規則第十八號京城居留民團督促規則第二條ヲ删除シ「第三條」「第四條」ヲ「第二條」「第三條」ト訂正ス



●暴徒城北洞に現る

警官の追跡▲暴徒を捕縛す

一昨日午前一時より二時迄の間に東部北洞十四統五戸黄義延方へ暴徒三十餘名(昨紙强盜團と記せしは誤り)各々兇器を携へて闖入し同家の下人金春永(五十)外二名を拉し去りたる出來事は昨紙逸早く報道し置きたるが今詳報を得たれば左に記することゝすべし

來襲されたる黄義延の家は有名なる富豪にて其の資產十數萬圓に上る程の素封家なるが元來義延は公共心に富み幾多の公共事業に關係し從つて世人よりの尊敬も厚く信望亦他を壓する程にて現に昨今にては東小門外に資金を投じて學舍を設け自ら之が監督の任に當り居る由なり斯る素封家に加へて信望亦隆々たるものにて其の名聲遠近に高く從つて暴徒等は全く氏の資產に目星を附け其の幾分にても掠奪せんものをと隱々同家を襲ひたるものならんもソレにしても不審なるは彼等が些の金員を奪はず唯人の下人のみを拉し去りたることなるが察する所遇は何等かの手段にて其の裏面には必ずある事情の伏在することなるべし何はサテ此の警報に接したる東部警察署にては濱島署長を始め加茂警部以下巡査三十三名早速武裝を整へ出發せしが途中濱島署長は隊を二分し進路を別々にして進みしに續て加茂警部の一隊は道を揚州郡街道に取り進軍せる折柄一名の韓人此方を差して馳せ來るに直に之を捕へ訊問せし所此の者は暴徒の爲めに拉去されたる李順泰と判り且つ同人より暴徒の樣子をも聞き知るを得たれば加茂警部は早速他の一方の指揮官劉警部に傳へ會を發し兩隊一致の步調を取りて進擊し終に賊徒の集合地たる揚州郡元堂里三角山の東麓に至りしに彼等は暢氣にも群を爲して麓の草原に横はり居るより一同は俄かに意氣昂り奴原御坐んなれと許りに一齊射擊を試みしに彼等は不意を打たれて狼狽爲す所を知らず取るものも取り敢へず禽獸の如く走せしが其の際宋昌楨(四十)洪春化(二十)の二名を捕縛し銃器二、劍二、彈丸四九、火藥容れ箱一を分取りしたり

●居留届に就て

十月十日統監府令第四十五號を以て居留規則發布せられ其届書式は同十四日京城理事廳告示第二六號を以て定められ其規則第一條二條の届出を爲さゞるものは十圓以下の過料に處せらるゝに付此際屆出然るべしとなり

●禮安の猿害

慶尚北道禮安郡には曩きに猛虎現はれ老韓人を嚙み殺したる慘事ありしが去月三十日には禮安郡宜東丹砂里にて本月八日には邑内面官底里にて九日には同面東底里にて十日には宜東面宜仁洞に於て狼四たび現はれ飼養の豚四頭を食ひ殺したりと此狼を見たる韓人の語る所に依れば其躰の太さは殆んど小馬に等しかりしと

●美人の末路(三)

旅の枕の假寢の夢シッポリ濡るゝ情の雨に男女の兩人は互に戀ひ憧れ末は相生の千代に八千代に渝るまじと夫婦約束迄なせしも併し政江に取つては幵はホンの表向きにて心の中は鬼あざみいつしか覺わし手練手管の數々表の掛け引きに巧みに男をば操なしつゝ少なからぬ金を絞り取りしが男はうれしとは露知らず無理な工面をして女に貢ぎ居るにつけても悲しいてには主人持ちの儘ならぬ身体偶の逢瀬の嬉しき中にも若しや女に浮氣な心の起りはせずやと案ずるも道理年からいつても親と娘程の違ひうれに女は十人並優れての縹緻良し偶に差し向ひての取り膳に數々重なる睦言の言葉の端にもよもや變りはすまじきに客氣らしいも可愛故と女に念を押すことも屢々なりしが政江は何時も其の度に却つて貴郎こそとしほらしくも顏を掩ひ水臭いことは廢して頂戴と口には言へど其の實政江には其の時既にある仇し男と不義の衾を重ね居るとは山田は夢にも知らざりしなり、サテ其の男といふは憲兵にて當時政江の住み居りし黄金町の所より程遠からぬ宿屋に下宿し平素政江の旦那の留守居勝ちなるを聞き知りいつしか政江と淺からぬ關係を結ぶに至りしが此の事終に誰れいふとなく山田の耳に入りしかば山田は血相變へて立腹し愛な恩知らず奴がと一時は堪へ切れぬ迄に怒りしも併し元々政江の色香に迷ひ居ることとてソレに政江も去るものなれば其の場は旨く云ひ丸め旦那の機嫌を直せしが壁に耳あり障子に目あるの譬へいつ迄不義の嫦曳の持續くべきにや又々山田の嗅ぎ知る所となり終に爰に一騷動は持ち上りたり

●色男は俺一人だ

旭町三丁目に何々屋とか薄暗き行燈を掲げたる一軒の下宿屋がある此屋の主人といふは大分年の老た皺くちやの婆さんなれど一筋繩では到底も縛り切れぬといふ程の凄腕ものにて愛嬌たつぷりの氣輕さと又た一つにはお菊といつて長崎生れの女中が居るので下宿の客人も多く仲々の繁昌なりとかされば婆さん此お菊を囮として來る客にも來る客にも膳を据へさせるにぞ何の客も箸を取らぬものなき中に久しく同家に下宿し居れる某といふ役人あり此役人もまたお菊の据膳に箸を取りたる以來非常なる熱心にて今は半ば某弗箱の役を勤め婆とお菊との手管に卷き込まれ陰で舌を出して笑ひ居るにも拘らず天下の色男は斯くいふ某一人なりと高からぬ鼻をうごめかし居るが何處まで鼻毛の長い役人だろうかとの投書をかくの如し

商店覗き

▲龜屋▼

主人の進辰馬氏新進氣銳の老を以て切々事に當る店運の隆盛蓋し偶然にあらざるなり京城に店を開きしは今より十有三年前と聞きつれど兎も角裸一貫の素寒貧より練り上げて今日の如き繁榮を來すに至りし腕前は到底凡人の及ぶ能はざる所とす店舗は本町三丁目の四辻巍然たる建物は巨然として商界の覇王の如くさながら四邊を睥睨するの慨あり商品目錄は西洋雜貨食料品殊に食料品は同店の專有に係るとか尙エビス、札幌、朝日の三ビールの一手販賣を爲し本年上半期に於ける賣高は實に九百七十八箱に上れりとは專ら同店員の自慢とする所なり店頭の飾り付けは何時も賑やかに春夏秋冬の折々につれて趣向を廻らす等却々に凝つたものなり

▲三越呉服店▼

三越呉服店とさへいへば日本全國中有名なる呉服商として兒童走卒も其の名を知らざるはなし何はサテ地盤のシッカリせし所と販路の廣大なる所から從つて商ひ振りも大膽に十錢二十錢の端したな掛け引きにビクとやうな色なしのみならず同店は何品に限らず一般に正札附きなるを以て上は歴々の旦那奥樣方より下は赤切れだらけの丁稚さんに至る迄ソレ相當の買物に何れも『負けろ』『負けぬ』の掛け引き上の面倒なく奇麗薩張りと捌ける所が同店の特色なり商品は言ふ迄もなく豐富店員は叮嚀大和町から大頭の料理屋連が重もに其の繩張り範圍內なりとか唯癖なのは「夜間營業不仕」との揭札なるが那れはヤハリ「仕ッて」貰ひたきものなり

▲釘本金物店▼

釘本藤次郎本店といふ大なる金看板は行人をして一見眼を欹たしむ尤も看板の大なるに從つて屋臺骨もソレに相當し却々宏大なるものなり商賣振りは金物屋さん丈ありて極めて頑固にして冷靜なれど其の所謂一般商人の如く客の樣子を見て直段を掛け引きし品物を上下するが如き弊なきは同店の特色なり華客先きは諸所にあらんも韓人との取り引きは却々に盛なるものなりとか

●藤米商店

本町六丁目の藤米商店にては洋服の丸染を開業したるが同染法に依れば如何に變色したるものと雖も新らしきものと異ならず又決して變色せざるを特色とする由尙京都染物の取次をなすといふ

●腸窒扶斯

京城明治町一丁目百三十五番戶肥沼佐吉郎(三八)本町九丁目二十九番戶安藤大三(四二)は十九日何れも腸窒扶斯に罹り大韓醫院及青坡病院に送らる

●魚屋の威勢

大和町一丁目魚問屋能野直吉とかいふは商賣柄威勢の良い丈ありて嚊など取り替ふることは朝めし前のこと現に十年間も連れ添ひ居りソレに二人の子迄生ましたおサヨといふ女房を何の罪咎なきに半年許り以前に離別し早速お梅といふ女を女房にせしが近頃は又々お梅の色香に飽きが來しと見ね幸ひお梅の妹おッ子といふが自分方に同居し居るをよい事にし或る時チヨッコン小當りに當つて見た所案外に事が捌けた故ソレからといふものは義兄弟の間柄なるにも拘はらずお梅の目を忍んでも不義の樂を貪りつゝありしが近頃は誰れいふとなく此のことがお梅の耳に入りしよりお梅は無念遣る方なくツヒ二三日前おッ子と大喧嘩を爲し結局は外聞惡くも道行く人をして立ち留まらしむるに至りたるが近所のものも此の喧嘩許りにはナンボ懇意な間柄でも仲裁の仕やうが無いとこぼし居るとかいふ

●巷のいろ〳〵●

◉靴品を陳列す 永樂町一丁目伊集院茂は曾て何者にか靴を竊取せられたるが一昨日午後三時頃小椒洞七五統李容一なるもの〻靴店に陳列しあるを發見したるにより其の旨直ちに銅峴分署へ屆け出でたり

◉馬車の中立 明治町三丁目小川鑑太郎は一昨日午後三時半頃南部光熙門通りを通行中向ふより曾て竊取せられたる所有の荷馬車をある韓人が曳き來るより直ぐさま最寄りの派出所に飛び込み其の旨訴へ出でしより警官は早速其の韓人を呼び止め訊問せしも今に埒明かずとの事なり

◉他人の懷へ手を入れる 東京生れ阪本武雄なるものは目下龍山酒井龍次郎方に居候の身ながら不心得にも一昨日午後七時頃南部竹洞派出所の附近なる韓人の酒幕に這入りサパリで五六杯續けざまに飲みしが忽ち醉が回り傍に腰掛け居りし某韓人の懷中に突然手を突き込み穩かならぬ行爲を爲せしが結局酒興の上と判り笑つて立ち別れたり

●本町座の己が罪

本町座酒井正俊一座本日の替り狂言は「己が罪」にして重なる役割は左の如し

塚口虔三(稻葉)漁夫浪七(石卷)仲居お時(一井)夫人環(堀江)漁夫辰(常盤)林長武田(吉井)櫻戸子爵(田宮)巡査山口(小泉)村醫森田(青山)坊主妙念(秋山)乳母お濱(阪本)漁夫松(櫻木)養壤お作(酒井)

同可娛欄(十六)

●都々逸●(本紙登載廣告)● 魚友痴史

▲と●り●消● 機嫌とり消ろうさぬ愛嬌 誰もすき燒絕へぬ客

▲松●その● 座敷殖して客松そのは 人もしるこの娛あん直

▲天●金● 秋の天金評ばん高く 客もきそばのぞろ〳〵と

天氣豫報 (自廿一日午後六時 至廿二日午後六時)

西の風晴

廿一日午前六時各地氣象概況 高氣壓は韓國東部にありて北風吹き概ね晴天なり

●用途　火付善く火力耐久價格低廉

竈、暖爐、竈用に適す

●周防德山海軍省煉炭所東隣

谷口無煙煉炭工場

韓國一手販賣

京城太平町二丁目

神田組

▲無料紹介欄▼

人事部

●新聞社の校正係又は外交員を希望年三十五元刑事且つ活版事業に（八）

●求婚　本年二十八月收入十圓血正体健十八九の良家の淑女と結婚したし　氏名在社（六七）

●外交係入用　市內保證人あるもの本人直接來談を乞ふ　南山町二の一七三農商工組合事務所（六七）

●弟子入用　但し十四五歲のもの　氏名在社（六八）

●求婚　年廿六血統正保累無月收五十圓容姿不問廿歲前後体健血正の女子と結婚したし　氏名在社（七〇）

●京城又は附近にて豆粕の製造所又は販賣所あらば御知らせを乞ふ　氏名在社（七一）

●家庭教師　朝九時より午後三時迄の間限はれたし給金不望年十九保證人あり　氏名在社（七二）

●夜間自宅にて簾耕に從事す御依頼の方あらば御申越し次第參堂の上委細承致すべし　姓名在社（七四）

（七三）エム生に答ふ長谷川町一丁目三〇番戶に來れ　エチ生（七五）

●仲居入用　年齡十七年より廿五六年者至急一名入用但料理店に心得の有る者なれば尚宜し　大和町一江戶善（七九）

●熊本縣人　市下確氏の消息を知りたし　エヌ生（七七）

●年齡廿五歲（妻帶者）會社銀行等の小使ひに雇はれたし　姓名在社（八〇）

物件部

●從來開業中の處突然辭職の不得已に付醫療機械藥品及び患者付の儘にて至急讓渡したし　姓名在社（四七）

●旭町一丁目通突十五間地所附（但七十坪）安價に讓りたし　姓名在社（六十）

●貸間　本欄人事部に御答申すオンドル一間疊敷數除り庭園尤雅にして閑靜詳細は御來談を乞ふ永樂町佛國敎會裏山田（六三）

古着道具買たし本町七丁目一六說賣（六四）

●賣地　旭町一丁目の山の手にて風景絕佳の土地家屋附にて讓りたし御望みの御方は御來談を乞ふ　姓名在社（七〇）

一本町より明治町に入三軒目空地三十坪斗附の貸家あり　櫻井時計店（七八）

裁縫、刺繡、編物、造花、摘細工、英語敎授す　和服仕立物御注文に應ず　大和町三丁目廿六番戶　古谷（八一）

貸地　龍山十五間道路南大門外四千坪割貸　本町　四ヶ所洋物店電三二一番（八二）

廣告

●事務員募集

二十才以下

旭町壹丁目

岡田辨護士事務所

移轉廣告

今般左記の處に移轉し從前の通り一般患者診療の需めに應ず尙ほ病室を增設し隨時入院治療を諸す

京城旭町二丁目（理事廳横）

富久尾病院

院長　京城理事廳囑託醫　醫學得業士　富久尾湊

開業御披露

拜啓秋冷之候各位益々御清適奉慶賀候陳ば時局の發展に伴ひ百般の業務漸く整ふと雖ども未だ藥湯溫泉の完全なるものを見ざるは誠に遺憾とする處に候

今回弊場は嘗て皇太子殿下を始め各宮殿下の御湯治あらせられたる別府溫泉を輸入し加ふるに水道良水をも使用し殊に朝湯の便を計り午前八時より御入浴相成候樣設備を了へ開業仕候尙御湯來の際は從來の四錢にては頗る高價にして一般浴客の遺憾とせらるゝ處なれば弊湯は顧客樣方の御便宜を計り特に左記の通りに勉强仕候間陸續御光來被下度奉願上候　敬具

主治効能

肺病　胃病　腹膜炎
肋膜炎　頭痛　皮膚病
ひぜん　黴毒　骨筋痛
せんき　子宮病　うちみ
切傷　一切

湯錢　大人　三錢
小人　壹錢五厘

京城本町七丁目壹番戶

別府溫泉

急告

本院に諸種の患者求診御出相成候得共本院は純粹專門にて皮膚病梅毒淋病横痃生殖器肛門病一般病の外一切取扱不申候左樣御了知願上候也

京城米倉町六十一番戶

京城皮膚病梅毒院

滿州韓國向

メリヤス品揃

殊に寒國向として防寒用品各種

商品項目

●シャツ　●ジャケット　●首卷　●和製ライト式衞生服
●ヅボン下　●厚地靴下　●サル又
●覆面頭巾　●手袋　●マキ
●毛織シャツ　●腹卷　●小兒フード
●其他メリヤス類一式

●相場表は御一報次第進呈仕候　特に勉强仕候

大阪市東區久太郎町四丁目（心齋橋筋西入）

合資會社　白原商店

電話東三六二六番

振替貯金一六五四五番

廣告

日本赤十字社韓國總委員部第一回總會を來る十月三十一日午後一時慶熙宮（京城西大門內）に於て擧行候に付ては當日社員は可成多數參列相成候樣致度且紀念品、繪葉書調製及會場設備等の都合も有之に付當委員支部內社員にして參列御希望の向は本月二十二日迄に京城居留民役所內當支部へ御申出相成度候也

追て本月二十二日を經過し御申出なきものは參列無之ものと見做し取扱候間此旨申添候

明治四十一年十月二十日

日本赤十字社京城委員支部

○岡野牧場は京城に於て最良の乳牛を有する事第一位にあり

長命せんとする人は

是れを讀まれよ

京城に於てエーアシヤ種ホルスタン種純粹乳牛を以て搾取する牛乳屋は岡野牧場なり

岡野牧場の牛乳は嚴密なる理學的檢查をなし配達す

岡野牧場の牛乳は嶄新完全の瀛熱消毒器を以て消毒したる者なれは風味極めて佳良なり

岡野牧場主は多年牛乳に關する經驗を有し本店は廣島市に於有數の消毒馬車配達牛乳屋なり

岡野牧場は新町裏寶六庵道にあり

岡野牧場は品質の優秀と親切とを以て本日誕生したるものなり

廣島市觀音村　岡野牧場本店

京城東四軒町　岡野牧場支店

申込所　本町九丁目三番戶　谷岡商店

同　本町三丁目　有田商店

○岡野牧場は京城に於て無比の勉强力を有する事第一位にあり

○岡野牧場は畜牛の飼養に有て乳牛飼養に第一位にあり

○品質優秀なる牛乳を販賣する所は岡野牧場を以て第一位にあり

開彩

▲第四十次　大連頭彩　金壹萬圓　新曆十一月三日　舊曆十月十日
▲第卅三次　安徽頭彩　銀壹萬圓　新曆十一月十日　舊曆十月十七日
▲第八十二次　北湖頭彩　銀五萬圓　新曆十一月十八日　舊曆十月廿四日
▲第廿二次　南江頭彩　銀四萬圓　新曆十二月十六日　舊曆十一月二十三日

定價

大連全紙金壹圓參拾錢
安徽全紙金壹圓貳十錢
湖北全紙金七圓五十錢（小切八十錢即チ十分ノ一）
湖北彩票根價便宜從の改正
江南全紙金七圓（小切七十五錢）即チ十分ノ一

確實發主如遠隔地方御購求希望者御贈金並書留信料添贈急速御用命通可贈付不誤賣願

西洋雜貨、洋酒、食料品
各國煙草、洋菓子、化粧品
洋反物、毛氈、各式毛布
支那緞子、紋繻子、繭紬
各國更紗、彩票每月販賣仕候

卸小賣商

京城銅峴十八銀行通

同順泰本店

仁川港支那町八番戶

群山同順泰支店

高等御下宿

御料理と可得どを旨とし調理方には萬端注意して御扱申候間一層御愛顧の程奉希上候

南山町一丁目

澤田館

特約販賣　自製

漬物味噌醬油製造元

京城本町五丁目

和洋酒、回精酢、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物荒物、食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣

尙御望に依り商品切手調進仕候

（電話二五一番）

大上商店

十月二十一日ヨリ十月三十一日マテ現金壹圓以上一割引

冬物大賣出し

日の出足袋發賣元

本町四丁目

㊐林吳服店

電話六五二番

冷御發賣

清酒櫻正宗

清酒櫻塊

入量の充實、品質の芳醇は冷御發賣を以て其の特色を發揮仕り候

京城南山町四丁目

山邑京城支店

電話八四九番

攝津灘魚崎

釀造元　荒牧屋　山邑本店

醬油味噌御小賣

京城南山町二丁目

酒元醬油釀造場

產婆並にマッサージ開業

南山町三丁目百十番戶（日本人俱樂部下手）

今般前漢城病院內科部長池田醫伯の御勸誘に從ひ前記の場所にて開業仕候

電話番號四二四番取次

横山こいと

登記漢城府手續

訴願居代書

土地鑛山測量

集金取立代辨

土地家屋賣買並金錢貸借諸般ノ仲介

京城本町二丁目

岡田事務所

取次電話六二四

土地家屋

金錢貸借

人事物件

雇人口入業

南大門通二丁目十三番戶

東屋

●新聞料　▲一ヶ月金四十錢　▲三ヶ月金壹圓拾錢　▲六ヶ月金貳圓　▲一年金三圓八十錢

●廣告料　▲五號活字十九字詰一行金十五錢　▲一回四十錢

發行兼編輯人　秋山忠三郎

印刷人　高木久馬太

發行所　京城新報社